

特集②「わたしの時間割」

6つのパターンを“誌上公開”

法職講座／教職課程／FLP／文化連盟／体育連盟／実験とレポート

時間割を自分でつくる。大学に入って、まず行うのがこの作業だ。自ら履修する科目を選ぶ時間割づくりは、大学生活を送る上の基盤作りでもある。何をしたいか。何をを目指すか。サークル活動は。それにアルバイトは…。それぞれの考えで、時間割には個性がでてくる。どうしたらいいか、悩む新生、新2年生も多いに違いない。そこで、時間割づくりの参考用に基本的なパターンと思われる6人の「わたしの時間割」を紹介する。

学生記者取材班

池内真由(今春、法学部卒)／上田雄太(文学部4年)／今子佳奈(文学部3年)
篠田有紀(法学部3年)／石川可南子(法学部2年)

2009年度 学部学年暦

	項 目	月日(曜)
前期	入学式(法・経済・商・文・総合政策学部)	4月3日(金)
	入学式(理工学部)	4月4日(土)
	授業開始(法・経済・商・文・総合政策学部)	4月10日(金)
	授業開始(理工学部)	4月9日(木)
	創立記念日(授業実施)	7月8日(水)
	授業終了(法・経済・商・文・総合政策学部)	8月5日(水)
	授業終了(理工学部)	8月6日(木)
	夏季休業(法・経済・商・文・総合政策学部)	自 8月6日(木) 至 9月19日(土)
夏季休業(理工学部)	自 8月7日(金) 至 9月19日(土)	
後期	授業開始	9月21日(月)
	冬季休業	自 12月25日(金) 至 1月5日(火)
	授業終了(法・経済・商・文・総合政策学部)	2月5日(金)
	授業終了(理工学部)	2月4日(木)
	卒業式(法・経済・商・文・総合政策学部)	3月25日(木)
	卒業式(理工学部)	3月24日(水)

※変更になることもあるので、必ず Web 及び学部掲示板を確認してください。

法職講座

法学部2年

加藤大典さん

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1時限						
2時限	体育	中国語		導入演習	英語	
3時限	憲法	民法総則		法学	心理学Ⅱ	
4時限	政治学			中国語	心理学Ⅰ	
5時限		国際学		英語		
6時限						



法律家や公務員などの資格試験を目指す学生のために開設されているのが、「法職講座」。なかでも通年で週2回、夜に行われる、「民法」「刑法」「憲法」の基礎

講座は、法律を学ぶファーストステップとして、多くの1年生が受講している。

週に2回、夜の講義

昨年度は、火曜日と木曜日の午後6時半から8号館で行われた。遅い時間からはじまる講義。それに合わせてどのように時間割を組めばいいのか、誰もが悩むはずである。

法学部法律学科の加藤さんは、法職講座のために1年次の時間割を工夫した。「火曜と木曜を中心に講義を入れ、なるべく空きコマをつくらないようにした」という。結果的に木曜は、2時限から5時限まで講義が連続し、そのまま法職講座という「ハードな時間割になってしまったのが反省点だ」と加藤さん。

記者(石川)も法職講座を受講した学生の1人だが、記者の場合は、火曜は午前中しか講義がなく、法職講座までの午後の時間を学校でまるまる潰すということになってしまった。講義を入れすぎると大変だが、入れなさすぎるとも学校での時間をもてあますことになる。

初学者へのアドバイスも

加藤さんは、「法職講座のわかりやすいレジュメと永山弁護士との解説で、とっつきにくそうな法律の勉強を先入観なくはじめることができた」と振り返る。法律家という夢はあっても、どのように勉強すればよいかなど、1年生には分からないことだらけだろう。そうとき法職講座は、「ところどころで勉強の仕方についてアドバイスをしてくださるのも初学者にとって、とてもありがたかった」という。

2時間半の通学時間に配慮

もう一つ、加藤さんの時間割の特徴として、1時限を空きにし、水曜、土曜を終日休みにしたことが挙げられる。千葉の実家から通っているため、通学時間に2時間半もかかってしまう。「通学時間が長いのが肉体的にも精神的にも負担だったため、大学に来る日になるべく多く授業を入れることで、通学する日数を減らした」という。うまく1時限を避けられたのも幸いだった。

空いた水曜や土曜は、バイトに授業や炎の塔研究室の予復習、独学の勉強、それに趣味(テニスと読書)に費やしていたという。「もちろん時には遊んで、楽しい1年間を送りました」と楽しむことも忘れなかった。

(石川)

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1時限	家族	生徒指導論 (*教職)			広告・宣伝論 (1)	
2時限	社会政策	世界地誌学		総合演習		
3時限	産業・労働			現代社会研究 (8)		
4時限	私法概論	社会学演習(3)	社会集団論	特別教養(13)		
5時限	人文地理学(1)	地理歴史科教育 の研究 (*教職)		公民科教育の 研究 (*教職)		
6時限				社会科教育の 研究 (*教職)		



通常の倍近い単位数

渡部さんは、教員免許状を取得するための授業である教職課程を履修している。教職課程を履修すると、卒業までに必要な単位とは別に教職課程の科目の単位を取得する必要があり、授業数は大幅に増える。「3年次で60単位分の授業を履修した」と渡部さん。教職を履修していない人と比べると倍近い単位数になる。

では、どのように時間割を組んだのだろうか。「単位数が多いので教職の授業を中心に先に入れて、その後自分の専攻の社会学の授業を入れた」と話す。また「授業の空き時間を作らないように工夫した」という。

どうしても出来てしまう授業の空き時間は、家が大学から近いため、一度家に帰り、模擬授業（実際に人の前に立って授業を行う演習）の準備をした。「模擬授業の準備がきつかった」と振り返る。

早くレポートは仕上げる

水曜日と木曜日と土曜日の夜は、飲食店でアルバイト。土日のどちらかは、所属している社会人のソフトボールチームの活動に充てていた。1週間休みがないように思うが、「これでも結構遊べる」と笑う。ただ「生活の中心は授業だっ

た」とも強調した。

授業数が多いと、その分試験が多くて大変だ。さらに教職の授業は、レポート提出が多い。「時間割がキツキツなので、早めにレポートは仕上げるようにした」と心構えを紹介してくれた。

教職課程を履修して良かったことは、「教職でしか出来ないことがある。なかでも養護学校と福祉施設で行った介護などの体験が大きかった」という。渡部さんは、これがきっかけで、福祉を卒論のテーマにしようと考えている。また、「グループワークの授業では、人の話を聞いて、みんなで何かを作っていくので、人に何かを伝える難しさを学んだ。「教職の授業で友人が増えた」とも話してくれた。

就職活動にも役立つ

「少しでも教職に興味があったら取った方が良い。何でもやってみることが大事。教員になるためだけではなく、就職活動にも役立つと思う」とアドバイス。ただ「やる気がないと出来ない」と強調した。

渡部さんは、大学入学時の目標であった「野球に関わる」、「バイトをする」、「独り暮らしをする」、「遊びもする」は、いずれも達成できていると話す。将来については、「やりたいことが見つかったので、一度就職して自分の力を試したい。そして、将来的には、教師になりたい」と明言した。

(上田)

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1時限		スペイン語 II A			消費者行動論	
2時限		経営管理論	スペイン語 II B			
3時限		ミクロ経済学 (前) マクロ経済学 (後)	環境科学	情報処理概論	心理学 II	
4時限	心理学 I (前)	英語購読 II	英語表現法 II	会社法 II (後)	経済学 II	
5時限			物質科学			
6時限	会社法 (前)					
7時限	FLP 演習 A					

FLP 松野良一ゼミ

商学部3年 太田 朗さん



地域に出て、 番組づくり

制作統括プロデューサーとして、FLP ジャーナリズムプログラム松野良一ゼミで毎日、フル稼働している。同プログラムは、学部に関わらず、将来ジャーナリストを志望し、選抜試験を突破した人だけが入ることが出来る、学部混合ゼミである。

FLP の中でも、実際に番組を制作する松野良一ゼミではゼミ以外での拘束時間が長いことで知られている。学生たちが地域の魅力を掘り下げ、新しい価値を見出す『多摩探検隊』(CATV 5局にて放送中)、子どもに地域の魅力とメディアリテラシーを教える『子ども放送局』など、プロジェクトが数多くあるためだ。1つの番組を作り上げるのに、1ヶ月から半年かかることもあるという。

「ゼミ活動は?週6日」

そんなゼミに所属する太田さんだが、時間割を見ながら2年次を振り返り、語学などの授業に欠席したのは2~3回という。取材先とのスケジュールで折り合いがつかなかった時、やむをえず欠席した。太田さんの時間割で、まず目立つのはぎっしりと授業が組み込まれている火曜日と水曜日。そして1限目の授業後、4限目まで

授業のない金曜日だ。

「空いている時間はいつも、FLP 演習室2 (松野ゼミ生のたまり場) にいます。週6日くらい(笑い)。金曜日は取材が入ることが多いので、授業を入れないようにしています」と工夫。加えて「1限の消費者行動論は、講義が面白かった三浦俊彦教授なので。水曜日の環境科学や物質科学は自分の不得意分野なんですけど、NHK スペシャルを使って解説してくれるのが面白くて取りました」と興味、関心のある授業をとった。

条件に合うアルバイト探す

ゼミや授業を優先して、1年生の時に週3回だったアルバイトも週1回に減らした。「土日のいずれかを利用して飲食店で配達をしています。一人暮らしなので、賄いがあって、シフトの融通のきくことを条件に探しました。一週間ごとにシフトが出せるのが魅力です」。

FLP では、学部の卒業単位とは別に FLP 修了に必要な単位がある。「商学部は、総合政策学部や法学部よりも FLP 修了に必要な単位の授業が少ないので、新年度は他学部から履修します」と、ジャーナリストを目指す太田さんは、目標を見据え、日々奮闘しながら学生生活を送っている。

(池内)

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1時限						
2時限			英語		企業法	
3時限	ドイツ語	国際法		行政学	心理Ⅱ	
4時限			体育(ゴルフ)	ドイツ語		
5時限		ドイツ語	英語	第三世界論	基礎演習	
6時限	地方政府論			政治学	FLP	

法学部政治学科3年の山口さんは、明治34年からの長い歴史を持つ辞達学会に所属している。活動の中心は弁論である。弁論とは、演説に近いもので、論理に基づいて相手を説得する技術だという。辞達学会会員は、毎年各大学・団体が主催する弁論大会に出場する。この大会に向け、会員それぞれが弁論をつくったり、アカデミックなテーマで議論を行ったり、日々勉強に励んでいる。

目立つ空きコマ

辞達学会では、2年生が会の運営を任されるため、山口さんはこの1年間、弁論局長という役職につき、会の運営に携わってきた。そんな山口さんはどのように時間割を組み、授業と辞達学会を両立させたのだろうか。

時間割表を見せてもらおうと空きコマが目立つ。「時間割のバランスなどはあまり気にせず、自分の興味・関心や先輩の薦めなどに基づいて授業をとった」という。辞達学会の活動時間は、「特に決まっていない」ため、自分の都合に合わせて好きな時間に会室に行き、弁論を作ることができるのだそう。「裏を返せば、授業の空いている時間はすべて活動時間」と山口さんは笑った。

空きは会室で活動

「会室に行くことを強制されはしないが、運営の立場にある2年生として会室の雰囲気づくり

のため、積極的に会室に向かった」と話す。これで空きコマの過ごし方がわかった。

アルバイトは、土曜の1日だけ塾の講師を行っている。「時間割が夜中心になってしまったため、授業後にアルバイトができなくなってしまったことが、この時間割の欠点です」と話す。

山口さんは、高校生の頃から、話をするときにはただ自分の考えを話すのではなく、自分とは異なった価値観を持つ人にも、自分の考えを理解してもらい、論理的に相手を納得させられる能力を身につけたいと考えていた。

弁論づくりで自ら成長

そして辞達学会に入り、自分の考えを話すということがどれだけ難しいかを痛感しているという。「例えば何か一つ批判するにしても、様々な側面から問題を捉え、なぜそうなるに至ったのかを考えた上で、慎重に批判するようになった」と自らを振り返る。

普段の授業では、どうしても受身になってしまいがちだが、辞達学会では一人一人が自発的に弁論を行う。弁論をつくるということは、「自分の価値観を自覚、分析し、曖昧であったものをはっきりさせていく作業」だそうで、この作業を通して、「自分だけでなく辞達学会全体で互いに成長して行くことができる」と山口さんは力強く語った。
(篠田)

チアリーディング部(体育連盟)

総合政策学部3年 杉山陽子さん

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1時限		中国語		中国語		
2時限		教育学概論	社会言語学	歴史と文明	Ad study	
3時限		人文地理	英語	東洋史	犯罪の概念	
4時限		現代契約法	外交史	Ad study	事例研究	
5時限		財産と法	簿記	道徳教育の研究		
6時限						



練習は 午後5時～9時

杉山さんは、中央大学応援団チアリーディング部に所属している。チアリーディング部は、年に4回ある大会への出場と硬式野球やアメフト、箱根駅伝の応援を行っている。普段の練習は火木金日の午後5時から9時までで、夏休み中は月曜日が加わり週に5日が練習日となる。

「チアは生活の中心」と杉山さんはこの1年間を振り返った。1年次は、練習の多さや授業との両立に部活をつらく思うこともあったが、2年になり要領もつかめ、部活のない生活は考えられなくなったと話す。「チアがなかったら、空いた時間、逆に何をしたらいいのかわからない」と笑う。

では時間割をどのように組んだのだろうか。チアの練習は、夕方から夜にかけてなので授業と重なる心配は少ない。5限からは授業と重なってしまうが、授業を優先することができる。しかし、木曜日の練習は唯一のタンブリング(跳躍や回転運動)の練習日のため、木曜5限は授業を取らないようにしたと話す。

空きコマがない

丸1日授業の空いている月曜日は、「タンブリングのスクールに通っている」という。大学

外部の施設で個人的にタンブリングの練習を行っているのだそう。

「月曜を空けるために他の曜日がきつくなってしまったので、今度は空きコマを作りたい」と考えている。空きコマができてしまうことを嫌がる学生もいるが、真ん中に集中している杉山さんの時間割を見ると確かにきつそうである。

「最初の授業に行ってしまうばなんとかなるけれど、練習の次の日の1限はつらい」と言って、笑った。部の活動は午後9時で終わるが、杉山さんは「闇練」と呼ばれる自主練習を行って帰るため、終電に乗ることも多く、家に着くのは12時を過ぎてしまうこともあるという。

キャプテンの重責も

高校時代、部活に所属していなかった杉山さんは、漠然と「大学では何か部活に入りたい」と考えていた。もともと体を動かすことが好きだったことと、チアの新勧ステージ発表を見たことがきっかけで入部を決めた。自分のチームだけでなく相手も応援するチアにはまり、学年が上がるにつれて大会後の達成感も大きくなり、今では新キャプテンとして部を支える立場になった。

「大学で何かやってみたい、何か始めみたいと考えている人がいたら、自信を持ってチアをお勧めする」と杉山さんは断言した。

(篠田)

実験とレポート

理工学部4年
中林拓也さん

前期	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1時限			反応工学			
2時限		有機工業化学	高分子化学		生物工学	
3時限	応用化学実験	量子化学			応用化学実験	
4時限	応用化学実験				応用化学実験	
5時限	応用化学実験				応用化学実験	
6時限						

後期	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1時限		物理化学	無機化学		生物有機化学	
2時限		環境化学	物理化学演習		創薬化学	創薬化学
3時限	応用化学実験				応用化学実験	
4時限	応用化学実験				応用化学実験	
5時限	応用化学実験				応用化学実験	
6時限						



「本当にこの1年間は大変だった。理工学部の新生には、『頑張ってください』と言うしかない」と、理工学部応用化学科の中林さんは、3年次の1年間をこう振り返った。

実験準備に精出す

理工学部のどの学科もそうだろうが、応用化学科もまた「3年のときが一番きつい」という。1、2年の時は実験がないため、知識を学ぶ授業が中心だったが、3年からは実験が入ってくる。その「準備がとにかく大変」なのだという。

実験をするためには、必ず事前にその分野を学んだうえで臨む。これは、決して怠るわけにはいかない。そして、週に必ず2回10枚以上の実験のレポートを提出する。これにもかなりの時間が割かれる。

興味のあるものから先に

暇な時間は少ない。でも「時間割は、主に自分の興味のあるもの、面白そうなものから選んだ。だからこそ、妥協することなく1年間続け

られた」とタネ明かししてくれた。

「なるべく空き時間はつくらないようにもできてしまう空き時間は、「必ず実験のための調べものやレポートの作成、演習問題の宿題の時間にあてた」そうだ。またテストも難しく、留年するケースも少なくないからと、中林さんは勉強に励んだ。

東京ドームでバイト

ただ、この3年間は決して勉強だけに費やしてきたわけではない。授業が終わってからは、後楽園キャンパスのすぐ傍の東京ドームでアルバイトをしている。さらに加えて、週に2日は高校でもやっていた野球のサークルで活動してきた。それでもこの3年間を振り返ると、「もっと遊んで、もっと色々な他の学科の人たちと交流を深めたかった」という。

卒業後は大学院に行くつもりだ。大学院に行って、研究の基礎をしっかりと学んで社会に出て通用する人間になりたいと考えている。具体的には、食品や飲料系の企業に勤めたいそうだ。

時間割を組み、それを全うするという事は、大きな目標を実現するための1つのステップなのかもしれない。
(今子)

🏃 スポーツの応援情報は、このサイトから! 🏃

学生イベントカレンダーは、学生が参加するスポーツ競技会の開催情報や結果をはじめとして、学生主催の講演会、演奏会などの情報を学生が独自で入力し、中央大学の公式Webサイトや学内の電子掲示板に掲載する仕組みです。



中央大学のトップページ

このバナー **学生が発信する イベント・競技情報** からどうぞ!

www.chuo-u.ac.jp

学生イベントカレンダー

- イベント全体
- スポーツ大会・競技会
(主催・参加)
- 演奏会・講演会
(主催・参加)
- 一般学生主催のイベント